

## 平成31年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

平成31年4月18日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 181人

② 数学 181人

③ 英語 183人

#### 5 留意事項

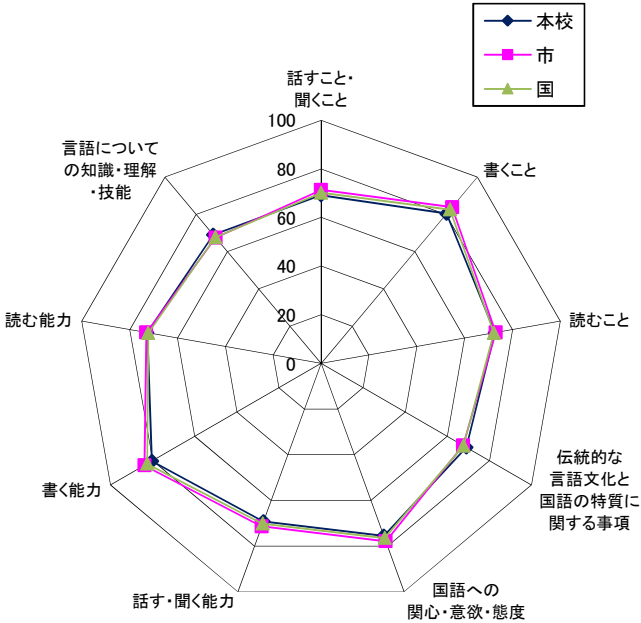
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、英語の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国, 市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	69.2	71.4	70.2
	書くこと	80.4	83.9	82.6
	読むこと	72.6	73.0	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.1	67.5	67.7
観点	国語への関心・意欲・態度	75.5	77.9	76.5
	話す・聞く能力	69.2	71.4	70.2
	書く能力	80.4	83.9	82.6
	読む能力	72.6	73.0	72.2
	言語についての知識・理解・技能	69.1	67.5	67.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

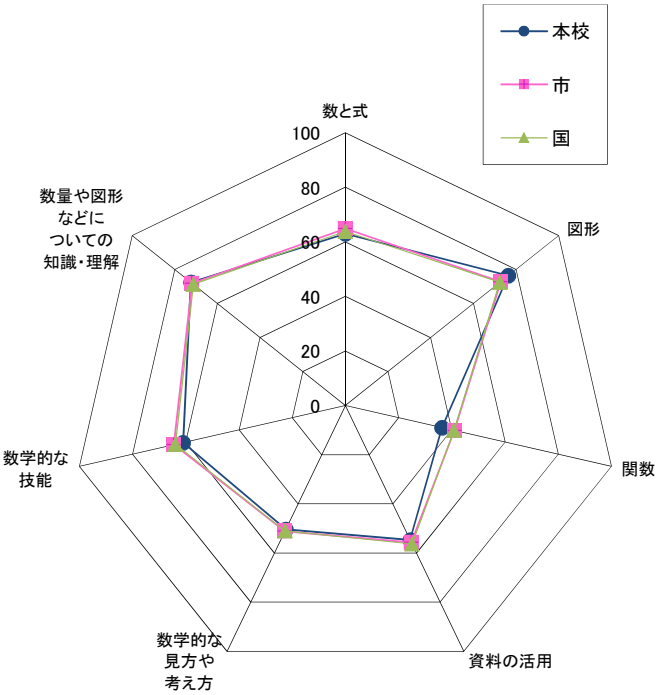
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は市平均を2.2ポイント、県平均を1.3ポイント、全国平均を1.0ポイント下回っている。 ●「相手に分かりやすく伝わる表現について理解する」は1.6ポイント下回っている。また、「話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ」は1.1ポイント、「話し合いの話題や方向を捉える」は1ポイント下回っている。	・書いた文章を相手に分かりやすくするために、どのように表現したら良いかを考えられるように指導の充実を図る。また、自分の考えをもち、相手の意見を聞きながら自分の考えを深め、話し合いの方向性を捉える時間を増やす。
書くこと	平均正答率は市平均を3.5ポイント、県平均を3.3ポイント、全国平均を2.2ポイント下回っている。 ●「書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する」は3.5ポイント、「伝えたい事柄について根拠を明確にして書く」は3.1ポイント下回っている。	・書いた文章を読み直し、論の展開や語句の使い方を考える推敲の時間を増やす。また、伝えたい事柄について根拠を明確にして、文章を書く練習を個別に指導する。
読むこと	平均正答率は市平均とはほぼ同等、県平均を0.3ポイント、全国平均を0.4ポイント上回っている。 ○「文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ」は県平均を2.3ポイント上回っている。また、「文章の添加に即して情報を整理して、内容を捉える」は県平均を1.0ポイント上回っている。 ●「文章に表れているものの見方や考え方について自分の意見をもつ」は、県平均を2.6ポイント下回っている。	・根拠を明確にして文章を書く際に、文章に表れているものの見方や考え方について自分の意見をしっかりと持てるように、文章の内容をしっかりと読む習慣を身に付けさせる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は市平均を1.6ポイント、県平均を2.0ポイント、全国平均を1.4ポイント上回っている。 ○「語の一部を省いた表現についての説明として適切なものを選択する」は県平均を3.5ポイント上回っている。また、「封筒の書き方を理解して書く」は0.5ポイント上回っている。	・今後も手紙の書き方や宛名の書き方などは、様々な行事でも指導していく。その際に、丁寧な字を書くことや字の大きさなどを考えて書くなど指導の充実を図る。

宇都宮市立雀宮中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	63.0	64.9	63.8
	図形	76.4	72.8	72.4
	関数	36.3	41.1	40.8
	資料の活用	54.7	55.7	56.3
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	50.4	51.1	51.0
	数学的な技能	61.0	64.5	63.9
	数量や図形などについての知識・理解	72.4	71.9	71.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

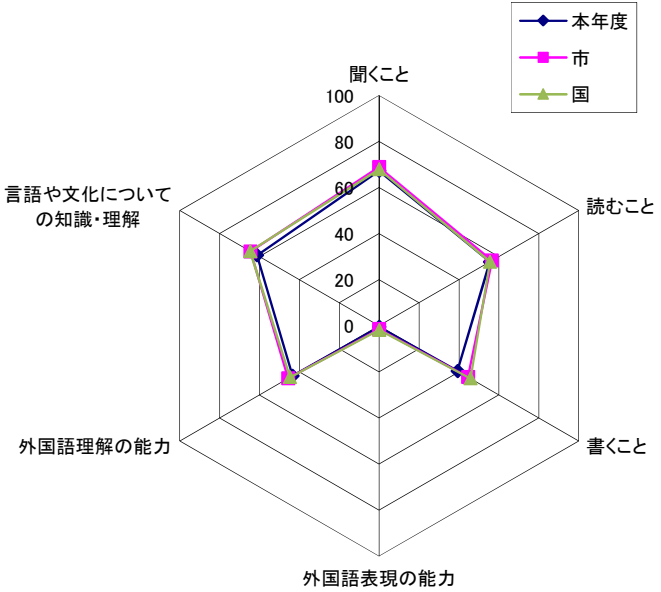
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は市平均を1.9ポイント、県平均を0.1ポイント、全国平均を0.8ポイント下回っている。 ○連続する3つの奇数の和の説明を読み、式の変形の説明をする正答率が、県や全国の平均に比べ、正答率が約4ポイント高い。 ●連立二元一次方程式の計算では、xとyの値のうち、片方だけ求めて、もう一方の値を求められずに誤答となっているものが、県や全国の平均に比べ、正答率が約3ポイント高い。 ●連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることの説明の記述の無回答率が、県や全国の平均に比べ、正答率が約3ポイント高い。	・連立方程式などの計算、特に、片方の文字の解を求めてから、もう一方の解を求める計算の反復練習を授業中に多めに取り入れ、定着を図る。 ・証明や説明の問題では、無回答率が高くなっている。穴埋めの問題形式から、徐々に記述式に近い形にしていく練習を行い、証明や説明の手順・考え方を身に付けながら、記述問題にも慣れていくように指導していく。
図形	平均正答率は市平均を3.6ポイント、県平均を4.1ポイント、全国平均を4.0ポイント上回っている。 ○反例となっていることの説明として正しいものを選択する問題では、県や全国の平均に比べ、正答率が約7ポイント高い。 ●図形を平行移動したときの移動距離を求める問題では、対応する頂点に注目せず、図形の間の隙間や図形の描いてある両端をみている誤答率が、県や全国の平均に比べ、約3ポイント高い。	・図形の移動には、平行移動・回転移動・対称移動があり、それらを組み合わせることで、様々な移動が可能になる。そのことを理解させるために、授業では、簡単な説明だけでなく、ICTを使って図形を実際に動かしてみたり、模型を使って立体的な場面設定を行ったりする。身近なものを動かして、どのような移動が行われたのかを検証しながら、回転体などのイメージにも繋げ、思考力の伸長を図る。
関数	平均正答率は市平均を4.8ポイント、県平均を4.0ポイント、全国平均を4.5ポイント下回っている。関数は、比例・反比例の式やグラフ・表の関係をしっかり理解していない生徒が多いため、関数に苦手意識があり、無回答率が高い状況になっている。 ●反比例の式を求める問題では、県平均を7.6ポイント、全国平均を5.8ポイント下回っていて、無回答率が約5ポイント高い。 ●式やグラフを用いて、見解を説明する問題では、県平均や全国平均に比べ、正答率が約2ポイント低く、無回答率が約6ポイント高い。	・比例・反比例は、2つの数量の関係を表しているもので、具体的な事例を用いて、2つの数量が関係している様子に興味を持たせる。また、数量の関係を見つけて、表にしてみたり、式を作ったりしていく作業を、グループ学習において生徒主導でより深く学んでいけるよう指導していく。
資料の活用	平均正答率は市平均を1.0ポイント、県平均を0.5ポイント、全国平均を1.6ポイント下回っている。 ○2枚の硬貨を投げたときの確率の問題では、県平均を3.1ポイント、全国平均を0.7ポイント上回っている。 ○最頻値を求める問題では、県平均を3.7ポイント、全国平均を1.8ポイント上回っている。 ●適切な代表値を選択する問題では、県平均を4.1ポイント、全国平均を2.2ポイント下回っている。	・標本調査では、様々な代表値があり、その目的に応じて、適した代表値を使用することで、そのデータの傾向や分析結果がより分かりやすくなる。データの見方や見せ方、分析などが、出来るようになるために、中央値や最頻値などの意味を再度確認させ、どのようなときに使用されるのが適しているかまでを授業でしっかり指導していく。 ・実際のデータを使用し、様々な代表値で値を出し、その結果から、意味があるものと意味がないものを判断していくところまで理解させる授業を行い、深い学びに繋げていく。

宇都宮市立雀宮中学校第3学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【英語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	聞くこと	67.3	68.9	67.9
	話すこと			
	読むこと	55.5	56.5	55.6
	書くこと	39.3	44.6	45.8
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度			
	外国語表現の能力	0.5	1.5	1.8
	外国語理解の能力	43.4	45.6	44.7
	言語や文化についての知識・理解	61.2	64.5	64.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は、すべての領域の中で一番高いが、市平均を1.6ポイント、県平均を1.2ポイント下回っている。全国平均とはほぼ同じである。 ○会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選ぶ問題の平均正答率は、県平均を5.0ポイント、全国平均を6.5ポイント上回っている。日常会話について、情報を正確に聞き取る力が身に付いている。 ●音声メッセージを聞いて、部活動についてのアドバイスを書く問題の平均正答率は、県平均を7.7ポイント、全国平均を6.5ポイント下回っている。聞いて把握した内容について、適切に書いて応じる力が低い。	・生徒たちにより多くの英語を聞く機会を与えるため、授業のはじめのTeacher's Talk、クラスルームイングリッシュの多用、ALTとのチームティーチングでの授業を継続していく。 ・授業において、聞き取るポイントを提示して概要を把握させたり、英文を聞き英語で答えたりする練習や、読まれる英語の中から正しい解答を選ぶ練習を増やしていく。
話すこと		
読むこと	平均正答率は、市平均を1.0ポイント下回り、県平均を1.0ポイント上回り、全国平均とはほぼ同じである。 ○まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解して適切な内容を選択する問題の平均正答率は、県平均を7.9ポイント、全国平均を6.5ポイント上回っている。授業において、英文の要点をまとめる活動を繰り返し実践している成果であると考えられる。 ●食糧問題についての書かれた資料を読んで、その問題に対する自分の考えを書く問題での無解答率が41.5ポイントで、県や全国より約13ポイント高い。	・今後も、まとまりのある文章の要点をとらえられるよう、英文を読む練習を行っていく。また、少し長めの文章にも取り組ませ、生徒の長文読解への苦手意識を減らしていく。 ・英文を読む際、副詞や代名詞等が何を表すのかを1つ1つ確認しながら読み解く指導をする。 ・単元末などに、英文の要点に対して、各生徒が自分の感想や意見を考えて英文で書く活動に取り組ませ、読む活動と書く活動の連携を図る。
書くこと	平均正答率は、市平均を5.3ポイント、県平均を4.2ポイント、全国平均を6.5ポイント下回っている。 ●与えられた情報に基づいて3人称単数現在時制の肯定文や否定文を正確に書く問題での正答率は、県平均も全国平均も下回っているが、無解答率もまた7ポイント前後上回っている。	・今後も授業の帯活動や単元末に単語や基本文の確認テストを行い、確実な知識の定着を図る。 ・授業での新言語材料の導入の際に、関連事項の文法事項の復習を実施し、理解度及び定着度が高まるよう指導する。 ・授業の振り返り活動として、語順並べ替え問題を多く取り入れ、生徒が普段から語順を意識して英作文できるよう指導する。



## 宇都宮市立雀宮中学校 第3学年 生徒質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「朝食を毎日食べている」では、12%の生徒は「毎日ではない」と回答している。食育の観点からも生徒自身へ朝食の重要性を話すとともに、学年だよりや保護者会を通じて、家庭への協力を呼びかけながら100%を目指したい。
- 「自分には良いところがある」に対しての肯定的回答率は県より4.2ポイント、全国より8.2ポイント高く、自己肯定感が高いことを示している。今後も生徒の個性を尊重しながら、一人一人の良さを認め自信を持てるよう励ます指導を、学校全体で行っていききたい。
- 「先生は分かるまで教えてくれている」に対する肯定的回答率は、県より8.8ポイント、16.8ポイント高い。授業だけでなく昼休み等の補修的な学習支援を実施していることや、先生と生徒の信頼関係が築かれていることが影響していると思われる。今後は更に各々の進路実現に向けて、必要な学力支援を行っていききたい。
- 「学級みんなで決めたことに協力して取り組み、うれしかった」に対する肯定的回答率は県より2.8ポイント、全国より11.4ポイント高い。それぞれが学級の一員であるという自覚と、協調性が高いことを表しており、今後も行事だけでなく日常生活においても、いろいろな考えや意見が発信できる学級に成長するよう支援していききたい。
- 「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」に対しての否定的な回答率が3.2%あった。いかなる理由も認められない人権に関わる問題であることを、道徳の授業やいじめ撲滅月間などの機会を捉えて、指導を重ねていきたい。
- 「家で計画を立てて勉強をしている」の肯定的回答率は60%強であり、県・全国を上回った。しかし、「平日の家庭学習時間」の問いには、1時間以上2時間未満の回答が42.6%と最も多かった。3年生（受験生）として1・2年の既習内容の復習と、3年で学んでいる新たな内容の復習を実践するためには、更に学習時間を確保する必要があると思われる。今後は各自に必要な学習内容を把握し、入試までの学習計画を改善しながら進んでいけるよう、高校説明会や三者懇談を通じて支援していききたい。
- 「学校の部活動に参加しているか」に対しては、運動部の加入率が県・全国を下回り、文化部の加入率は逆に上回った。生徒の興味・関心を活かした部活動が展開されている表れであり、今後も異学年集団の部活動の中で学び成長できる教育的効果を、生徒だけでなく保護者からの理解・協力を得ながら展開していききたい。
- 「1・2年生の授業でICTをどの程度使用したか」では、月1回未満との回答が83.6%と高く、県・全国の2倍強となった。技術科だけではなく他の教科でも活用できる単元を確認し、積極的にパソコン室を使用するよう教科部会や校内研修で検討していききたい。
- 「学級生活をよりよくするために話し合い、解決方法を決めている」に対する肯定的な回答率は県を上回り、全国からは約12ポイント高い。生徒たちは日頃から自分たちの学級について関心をもっており、自他の権利を尊重しながら民主的に生活している。今後は更に学校内に目を向け、3年生としてのリーダーシップを発揮してくれるよう支援していききたい。
- 「国語の勉強は好きですか」の肯定的回答率は県・全国を約12ポイント上まわった。以後の質問でも国語は「社会に出てから役に立つ」ので「大切である」と回答している。今後は学力とともに更に正しい言葉遣いや文字力の向上にも努力していききたい。
- 「数学の勉強は好きですか」の否定的回答率は47%と県・全国を上まわった。以後の質問では「社会に出てから役に立つ」ので「大切である」と回答しているが、「授業の内容が分からない」と回答している生徒が27.3%に上る。今後も分かる授業の展開と、分からない部分の解決のための支援を実践していききたい。
- 「英語の勉強は好きですか」の否定的回答率は51.9%と県・全国を上まわった。以後の質問では1・2年生の授業で英語で「考えを伝え合う」活動や、「スピーチなどの発表」活動が少なかったと回答しており、県・全国を下まわった。今後は文法的な内容の定着とともに、話す活動にも重点を置いた授業展開を実践していききたい。

## 宇都宮市立雀宮中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・振り返り活動と連携させた、家庭学習ノート学習	家庭学習の一部として、「家庭学習ノート」に1ページの自主学習を行い、提出することに取り組ませている。授業を振り返り、復習の具体的な内容や方法について自主決定して、目的をもって実践させている。	・「家庭学習を計画的に行っている」と回答している割合が高いが、家庭学習ノートを優先する傾向があり、必要な自主的な復習に充てる時間が不足気みである。
・自分の考えをまとめ、記述・発表する指導の充実	教科部会で誤答分析や書いたり話し合いを行う学習活動の場面について検討し、共通理解を図りながら実践して行く。また、授業研究会を開き、指導法について教師間で共有する。	・教科の特性や単元内容によって、実践頻度に差が生じている。特に入学後の2年間で、授業において生徒が習得していく学びのスキルが重要である。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査の基本的な知識を問う問題において、全国平均正答率を2ポイント以上下回るものも各教科複数見られた。	パワーアップシート等を活用した、復習による内容定着を図る指導	単元の導入時に、関連のある前年までの内容を復習し、新たな学習内容の理解がすすむようにする。 また、単元末または学期のまとめの際に、パワーアップシートを使ってグループで学び合い学習に取り組ませる。